

2 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 令和2年2月6日（木）
- 2 開 催 場 所 新館8階 教育委員室
- 3 出席した委員 小南教育長、廣岡委員、播委員、坂元委員、土屋委員
- 4 出席した職員 高井教育総務部長、山本教育指導部長、
吉田教育総務部次長、杉本教育指導部次長、
神吉教育指導部学校教育担当参事、
山野教育総務課長、岸田学務課長、
福島社会教育・スポーツ振興課長、
境学校教育課長、今津青少年育成課長、
加藤教育研究所長、藤崎教育総務課副課長、
岡本教育総務課管理調整係長
- 5 傍 聴 者 7人
- 6 議 事 の 要 旨
 - 開 会 午後2時00分
 - 会議録署名委員指名のこと
坂元委員に決定
 - 1月定例教育委員会の会議録報告承認のこと
(事務局から会議録朗読報告)
承 認
 - 会議公開の可否決定のこと
全ての議事を公開することに決定

(報告事項)

1 体罰に係る実態把握緊急調査結果について
(教育指導部参事から説明)

委員：児童・生徒だけでなく教員にも調査を行い、結果をすべて公表し、丁寧な対応を行っていることは評価できる。しかし、未回答者の中で体罰や不適切な指導が原因で不登校になっている子どもがいる可能性はないのか、未回答の理由を確認し、適切な対応をしてもらいたい。また、不適切な指導の中で人権にかかわるようなことや、子どもたちを精神的に追い詰めてしまうような事案についても別途対応してもらいたい。

教職員調査の中には事務職員や用務員も含まれているのか。

事務局：教職員調査は教員のみを実施し、事務職員や用務員は含まれていない。未回答の児童・生徒の中には、不登校の子どもも含まれており、一人ひとりに応じた対応を心掛け、回収率が100パーセントになるように引き続き行いたい。なお、現状では教育委員会が認定した体罰が原因で不登校になった者や大きなけがを負った者はいない。体罰ではないが、不適切な指導に当たるものとしては、「強い叱責」や机をたたくといった「威嚇」が挙げられた。学校長から当該教員に対し、指導方法を改めるよう指導するように指示している。

委員：教員以外の学校職員へも調査することで、教員とは違った視点から見えてくることもあると考える。

また、事案の概要では児童・生徒に再三注意しても態度が改まらないという事案が多くみられる。教員たちは多様な児童・生徒に対し、注意一つとっても神経を使わざるを得ない状況が見受けられる。

教育長：「アンガーマネジメント」の重要性を感じ、先月、全教職員を対象に研修を行ったところである。今回の報告を受けて、教員の思いと子どもの受け止め方にギャップがあるのではないかと感じた。教員が児童・生徒が励んでくれることを期待して厳しく指導を行っても、子どもたちにはあまり響いていないなど、世代間ギャップがあることも教員が認識する必要があると感じた。

委員：素晴らしい教員がたくさんいるが、そのような教員が世代間ギャップのような認識のずれで、結果的に子どもを傷つけているケースもあると思われる。また、普段から学校管理職や周りの教員が注意し合えるような、教員同士の風通しの良さが必要ではないかと感じた。

委員：今回の調査では身体的に傷つけられる体罰が主ではあったが、叱責等の言葉によって傷つけられることは叩かれることよりも傷つく場合もある。子どもたちの心を傷つける行為についても注視してもらいたい。

委員：体罰の件数と体罰をした教員の数が一致していないということは、1人の教員が複数行っていたという認識でよいか。

事務局：そのとおりである。

委員：体罰をした教員に対し、どのような対応を行うのか。

事務局：全教職員向けには1月に全体研修を実施したところであるが、今後も子どもたちへの指導観、人権感覚などの向上については、引き続き各学校と相談しながら続けていく。

委員：同じ教員が複数回にわたり体罰をしていたということは、日常的にその指導が当たり前になっていることでもある。通常、教室に教員は1人という閉鎖的な空間において周りの教員が指摘することは容易なことではないが、組織内や同僚間等でお互いに指摘し合える学校文化を作る必要がある。

事務局：教職員研修の際に、県教育委員会の指導主事からも同様の指摘があったところである。かつてのような「怒る先生」、「そうでない先生」という役割分担ではなく、今後は「チーム学校」として子どもたちに対して、協働で関わらなければならない。状況によっては、教員一人で子どもたちに関わらないといけないこともあるが、一人で抱え込まないような雰囲気職場に変えていけるように進めていきたい。

○ 次期定例教育委員会予定日のこと

3月12日（木）午後2時から開催することに決定

○ 教育長諸報告

(1) 教育行政視察について

ICT教育の先進地である、熊本県熊本市を視察した。熊本市ではICTを通して、子どもたちの自己肯定感、自己有用感を高め、教育の質的向上を目指している。小学校の公開授業では、高学年の児童らがタブレット端末を使いながら、パンフレットやチラシ、ポスターの作成を主体的かつ積極的に行っており、ICTを活用したアクティブラーニングが効果的に行われている様子を拝見することができ、充実した視察であった。

(2) 加古川市小中学生理科作品展、書写展、美術展及び加古川市ふれあい作品展について

加古川市小中学生理科作品展、美術展を観覧し、素晴らしい力作や子どもならではの感覚や色彩、ものの見方に感激した。加古川市ふれあい作品展では驚くような色合い、色彩の鮮やかさや個性あふれる作品が多かった。毎年開催している作品展なのでぜひ多くの方に参加してもらいたい。

○ 教育委員諸報告

〔坂元委員から〕

(1) 教育行政視察について

熊本市ではタブレット端末も文房具と同じようにあくまでツールのひとつと捉え、授業の一部は手書きで行っており、タブレット端末だけですべてを完結させるのではなく、どう使うのかが非常に大事であると感じた。また、児童らが授業の中で写真を見せ合いながら話し合う姿などは、ICTならではの授業であると感じた。しかし、熊本市でもすべてを使いこなせているわけではないと聞き、教員が習得するのにも時間がかかるため、教員のストレスにならないように導入してもらいたい。また、導入にあたっては、より活用しやすい環境づくりをするためにもLTE回線とWi-Fi回線のどちらがよいか十分に検討してもらいたい。

〔土屋委員から〕

(1) 教育行政視察について

タブレット端末の導入はただモノを入れるだけでなく、使うスキルも必要となるため、教員への研修にも重点的に取り組んでももらいたいと感じた。また、熊本市のように教員たちが自由に制限なくタブレット端末を使えるような体制は望ましいと感じた。

〔播委員から〕

(1) 第34回加古川市学校保健研究大会について

研究大会の発表で、学校にいる間、主として保健室で過ごす「保健室登校」についての報告があった。市内では小学校が19名、中学校が17名おり、そのうち小学校では7名、中学校では2名が教室に戻ることができたが、不登校になると復帰がさらに困難になる。保健室登校の対応については、学校内での協議、保護者との協力、関係機関との相談が挙げられる。学業不振や家庭内でのトラブルなど、複雑な事情が背景にある中で、養護教諭が対応するケースが多いが、専門性が高い養護教諭ばかりではないので、教育委員会としても保健室登校の実態の把握、子どもたちの復帰へのバックアップに取り組んでももらいたい。

○ 教育総務部長諸報告

(1) インフルエンザによる学級閉鎖について

本市では、今冬は12月上旬から、インフルエンザによる学級閉鎖の措置が、市内各学校園で取られている。

委員：徐々にインフルエンザA型の患者数が減っているが、例年、A型の流行が落ち着くとB型が流行する傾向にある。B型は一般的にはA型より少ないといわれているが、流行は続いているため引き続き体調管理に気をつけてもらいたい。

以上、1件について報告

○ 教育指導部長諸報告

(1) 第5回社会教育委員会議の開催報告について

1月28日(火)に、令和元年度第5回社会教育委員会議を開催した。

委員：総合文化センターの博物館には素晴らしい所蔵品がたくさんあるが、市内小中学校における博物館の利用状況を教えてもらいたい。

事務局：昨年4月から無料開放も実施しており、加古川市が誇る貴重な文化財を多数展示している施設であると自負している。徒歩圏内の学校は授業時間中に訪問し、活用しているが、遠方の学校では博物館まで行くための移動手段が少ないため、過密な教育課程の中では利用する学校が少ない状況である。社会教育委員からもPRの必要性について指摘されているところであり、今後の課題として認識している。

委員：鶴林寺も重要な文化財が多くあるのでこちらも小中学校の見学先として、同様に検討いただきたい。

(2) ブラジル連邦共和国パラバレーボールチームの事前合宿について

ブラジル連邦共和国パラバレーボールチームの事前合宿の日程が確定した。

(3) 令和2年度高等学校入学者選抜に係る日程について

令和2年度兵庫県公立高等学校入学者選抜について、推薦入学・特色選抜・多部制I期試験は2月17日、学力検査は3月12日に実施される。

(4) 令和元年度中学校卒業式教育委員会出席予定者について

令和元年度中学校卒業式が3月10日(火)に挙行される。

(5) 第 28 回 加古川市障がい者海外派遣について

2月7日(金)から「第28回 加古川市障がい者海外派遣」が実施される。

(6) 令和元年度 教育研究所研究員「研究発表会」の開催について

2月20日(木)に令和元年度 教育研究所研究員「研究発表会」を開催する。

以上、6件について報告

○ 閉 会 午後2時55分